

第3回 へきなん自殺対策計画策定委員 会議録

1 日時 令和6年2月9日（金） 午後1時30分から2時30分

2 場所 碧南市役所 談話室3

3 出席者及び欠席者

(1) 出席者 10名

山中寛紀、杉浦浩二、武光隆史、竹内和美、杉浦みどり、落合俊也、
杉原孝子、山本直仁、小田直樹、森川和浩（代理：小島広明）

(2) 欠席者 1名

岡村誠

(3) 事務局職員 5名

健康推進部長 山田昌宏、健康課長 金原厚夫、母子保健係長 杉浦あ
ゆみ、成人保健係長 石川麻子、庶務係長 東海林利治

4 傍聴者

なし

5 議題

(1) パブリックコメントの結果について

(2) いのち支えるへきなん計画（案）について（資料1・2）

6 質疑、意見等

(1) パブリックコメントの結果について

資料にて説明。特に意見なし。

(2) いのち支えるへきなん計画（案）について

資料にて説明。意見については以下のとおり。

委員：資料1の43ページ「4 成果指標の基本施策Ⅱ『悩みやストレスを感じた時に、誰かに相談する人の割合』」について、現状値・目標値のパーセンテージの根拠は17ページ「調査の間8 結果」にあるが、26ページ「(1) 第1次計画の成果指標①『悩みやストレスを感じた時に、誰かに相談することにためらいを感じる人の割合』」も同じ「調査の間8 結果」を使用しており、齟齬を感じる。43ページ「4 成果指標」の欄外に、現状値は推測である等の注釈を付けるべきではないか。

事務局：第２回策定委員会でいただいたご意見を基に、４３ページ「４ 成果指標『悩みやストレスを感じた時に、誰かに相談する人の割合』」へ変更しており、次回調査の文面を想定した内容としているため、注釈を付ける対応とします。

委員：資料１の４ページ、平成４年で１１人が亡くなっているが、事前相談はあったのか。

事務局：相談を保健センターにいただくこともありますが、個人を特定できないため、相談された方が亡くなったのかどうかまではわかりません。

委員：関係機関との連携を図り、対象者の把握や支援をしてほしい。

事務局：努めてまいります。

委員：健康課は自殺対策のとりまとめ課として、関係機関の連携や情報共有がしっかりとできるようにしていただきたい。

事務局：努めてまいります。

委員：実際、悩みは信頼している人にしか話せない。自分なりに悩みから解放される切り替えやストレスへの対応ができるようになることもよいことと思う。

委員：支援の体制の担当課が多岐にわたるため、各所管課から健康課に情報が吸い上がるように努めてもらいたい。

委員：今後、ドラッグストアや調剤薬局として携わるなかでゲートキーパーの役割を担える場合もあるかと思う。

委員：不登校、引きこもりは、学校の重点課題となっている。原因は家庭の抱える課題も含め多様化している。教員自身も課題を抱えている場合もある。声を掛け合える関係が大切だと思う。

委員：心の健康相談や精神科医による相談事業を、保健所でも実施しているため、ぜひお声がけいただきたい。

委員：虐待と同様、自殺についても見つけにくい。啓発活動にも努めてほしい。

委員：職域では、若い世代とのコミュニケーションのとり方や育成が難しいといった声をきいている。

委員：社会福祉協議会は、現在も連携や情報共有を図り相談支援を行っており、継続していきます。

委員：自殺念慮までしてしまった方は、支援の声をきき入れることはできない状態になってしまっていると感じる。早期にキャッチして傾聴していくことが重要であると思う。

委員：次回調査には、「自殺対策を知っているか」の問いの追加を検討してほしい。

委員：資料1の44ページ「5計画の推進」で横の連携も図れる体制をとってほしい。

事務局：地域自殺対策の進捗管理における「確認シート」は、健康課のとりまとめの後、関係各課にフィードバックを行います。また、関係各課の会議には健康課も出席し、顔の見える関係づくりを行い、横のネットワーク構築に努めています。

案について挙手全員により、可決。